

古代山陽道

安佐南区散策マップ



古代山陽道安佐南区散策マップ作成委員会

いざ、古の道へ

古代山陽道 安佐南区散策マップ

情報や文化が行き交う
飛鳥・奈良・平安時代の大路
古代山陽道。
今、当時を思いながら
歩み進むと、
どのような情景が
見えるのだろう。

はじめに

今から千三百年以上も前の飛鳥時代に当時の朝廷が造った七つの官道のひとつ「山陽道（古代山陽道）」が、ここ広島市安佐南区を通っていました。

古代山陽道は、宮都（朝廷所在地）と大陸・半島との玄関口である大宰府を結ぶ道として第一級の官道でした。大陸との盛んな交易に伴う情報や文化が行き交い、沿道地域にも歴史や文化の面で多大な影響を与えました。

安佐南区は歴史的色合いが濃く、史跡や旧跡なども多く、これまでにも地区ごとに散策マップが作られています。こうした土壌がある中で、新たに古代山陽道の道筋を書き入れた散策マップを作り、古代人の行き交った古（いにしえ）の道に夢をはせるとともに、地域の歴史とその魅力を再発見していただくことをしました。

この度の散策マップ作りには、安佐南区内全10の公民館とその地域で活動する歴史にかかわる人たちが共同で取り組みました。この散策マップを活用されることで、郷土の歴史・文化の継承と魅力の再発見がなされ、文化的遺産等への関心がさらに深まることを切に願っています。



もくじ

はじめに	1
古代山陽道とは	3
散策コース①	7
東野・古市エリア	9
安エリア	15
伴・大塚エリア	21
散策コース②	27
祇園エリア	29
佐東エリア	35
戸山エリア	38

【本誌の散策コース】

本誌は安佐南区の全10の公民館が共同で作成しました。

散策コースは、地域性から6エリアに分けています。また、古代山陽道の道筋に沿った「散策コース①」と地域が薦める古道に沿って紹介した「散策コース②」に分かれています。

「散策コース①」は、『広島市の文化財第50集 古路・古道調査報告』掲載のルートですが、推定が難しいルートとして紹介されていることをご理解の上ご利用ください。

上の鳥かん図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図（明治31年）を使用しました。（承認番号 平28中候第1号）

図中の村名や地区名は当時の名称のままです。

鳥かん図制作は、織田雅己さん。

古の大動脈

情報や文化を運んだ古代山陽道

七つの官道

大化の改新を果たした七世紀中頃、律令国家としての体制を整えた朝廷は日本国土を畿内〔※1〕と七道〔※2（七つの地域）に区分しました。そして、その地域との往来を迅速かつ安全に行うための七つの官道を敷設（左図）。それは、宮都



七道路線図（『延喜式』からのイメージ図）

と地域とを結ぶ直線的かつ短距離を目指した道でした。

この官道は重要度により、大路（山陽道）、中路（東海道、東山道）、小路（北陸道、山陰道、西海道、南海道）に格付けされました。

山陽道はただ一つの大路として敷設されました。それは、宮都と当時ただ一つの支庁で大陸や半島との玄関口であった大宰府を結ぶ道として重要度の高い道と位置付けられたからです。その道筋に安芸国はありました。

駅鈴の所持

官道は、駅使（えきし）〔※3〕の緊急連絡や公文書を駅から取り次いで送る通送（ていそう）業務のための往来、庸・調（労役に替えて納めた布製品や税としての米や特産品）の運搬等の公的利用に限られ、通行するには朝廷が発給する駅鈴（えきれい）〔※4〕を所持し

駅家制度

駅家には駅長（えきちょう）〔※8〕が置かれ、駅長の下には駅馬を管理する駅戸（えきこ）〔※9〕が駅馬の頭数に応じて置かれていました。さらに、駅戸の下には1頭の馬に対し6人の駅子（えきし）〔※10〕がいて、馬の世話や口取り（馬を誘導すること）などをしていました。

駅長は駅戸や駅子の管理と駅家の運営を担っており、これらの管理・運営の経費に充てるため、大路では4町（1町は約109m四方）、中路では3町、小路は2町の駅田（えきでん）が支給された上、庸・調はもとより雑徭（ぞうよう）も含む全ての課税を免ぜられていました。なお、駅田の収入は官吏一行の食糧や新馬購入費にも充てられていました。

重大な知らせを、鈴の音とともに…

駅鈴は駅使が朝廷から支給されて帯同していました。駅では馬上から駅鈴を鳴らして身分を知らせ、駅子と駅馬を調達することができました。

重大な知らせを届けるときや税の運搬などで鳴らされた鈴の音に、当時の人たちはどのような思いで聞いていたのでしょうか。



駅鈴（隠岐の玉若酢命神社所蔵）

【万葉集に詠まれた駅鈴】

鈴が音の 早馬駅家（はゆまうまや）の 堤井（つづみゐ）の
水を飲（たま）へな 妹が直手（ただて）よ

作者未詳 万葉集 巻 14-3439

【訳】 駅鈴（えきれい）の音を響かせる官馬に 駅舎の堤井の水を
飲ませて下さいな お嬢さんのその手で

駅使や駅馬のお世話をする駅子には、うら若き乙女もいたようで、
駅使とのつかの間のロマンスがあったのかもしれない。

なければなりません。この駅鈴には刻印が記され、その本数により駅馬（えきば）〔※5〕が使用できる数が決められていました。駅使は1日に8駅以上の行程でしたが、謀反等の事態や天変地異、国境紛争などの緊急事態には急使として10駅以上の行程を踏破していました。また、特別緊急事態で専使が全行程を携行することが無理なときは、「飛駅言上」といって使者を変えながら昼夜兼行の超特急でリレーすることもありました。

大路の道幅

大路であった山陽道は、その名から道幅の広い大きな道を想像しますが、大路の格付けは往来するのに必要な駅馬の配置数に準拠したものです。ちなみに大路は20頭、中路は10頭、小路は5頭と馬の頭数が規定（延喜式〔※6〕）され、その馬が配置されていたところを駅家（うまや）〔※7〕と呼ばれていました。

その道幅は近年の古代山陽道の発掘調査事例から、奈良時代には9mから12m幅、駅伝制の変革が行われた平安時代以後には6m前後の幅であったことが確認されています。

【安芸国における古代山陽道の駅とその比定地】

駅名	比定地
真良	三原市高坂町真良馬井谷
梨葉	豊田郡本郷町下北方
都宇	東広島市高屋町元兼竹原市新庄町
宇鹿（鹿附）	東広島市高屋町東高屋～西高屋郷
木綿	東広島市西条町寺家
大山	広島市安芸区瀬野川町大山
荒山	〃 畑賀
安芸	安芸郡府中町下岡田
伴部	広島市安佐南区沼田町伴（奥畑川流域）（上安境）
大町	広島市安佐南区安古市町大町 広島市佐伯区五日市町原田
種篋	広島市佐伯区五日市町利松 佐伯郡廿日市町下平良
濃吹	佐伯郡大野町郷または高畑高畑
遠管	大竹市小方町

上段 藤岡謙二郎：『古代日本の交通路Ⅲ』昭53
下段 広島県：『広島県史 原始・古代』昭55による
一段は同一の比定地
広島市の文化財第五十集「古路・古道調査報告」（広島市教育委員会編）より
※表内の地名は、1992（平成4）年発行当時のまま

謎の駅家所在地

駅家の配置間隔は約16km（当時の表示は今の里程とは異なりますが30里）とされていましたが、山陽道の場合はおおむね10kmと、他と比べ短く設定されていたようです。

延喜式によると、安芸国には13の駅家があり、東端の真良から西端の遠管まで右表の順で配置されていました。その場所は、史料などから比較して推定（比定）されていますが、表内の「伴部」や「大町」のように

比定地が2か所記されている駅家があります。

駅家の場所や駅家と駅家を結ぶ道筋の比定には諸説あり、議論が分かれています。これらの解決には、発掘調査や新たな史料の発見を待たなければなりません。

いずれにしても、この安佐南区内を間違いなく駆け抜けていた古代山陽道。宮都と大陸・半島との玄関口大宰府を結び、どれだけの歴史と文化を運んだのでしょうか。時には外国の使節も行き交ったであろうこの道に大きなロマンを感じます。

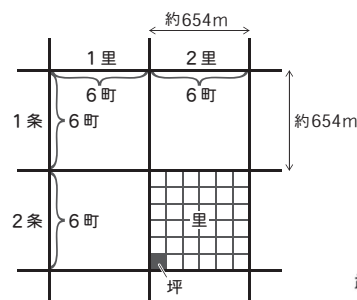


条里制 碁盤の目に区切られた 古代の土地区画整理

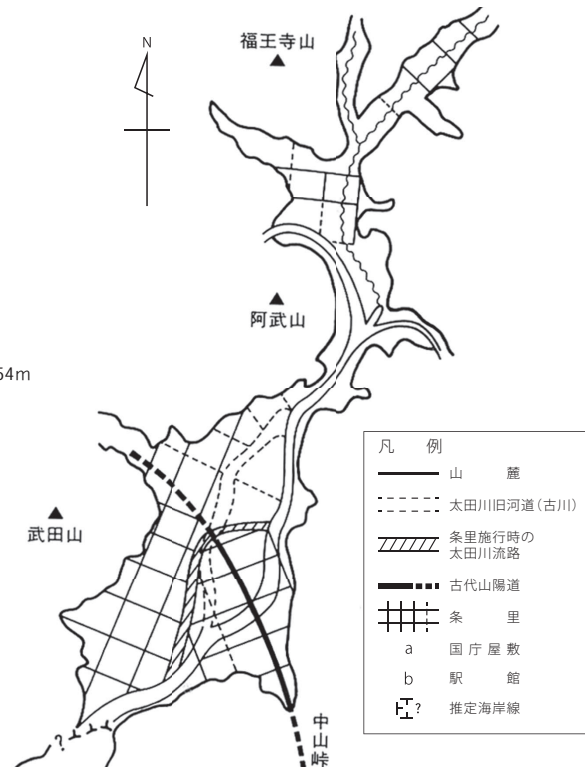
安佐南区内の太田川流域周辺低地での、古代の土地利用を特徴づけるものに条里制の遺構があります。条里制は、あぜや道、水路で碁盤目状に耕地を区画し、耕地の位置を表示する方法です。

南北を「条」、東西を「里」と数え、一辺の長さ6町（約654m、1町は約109m）四方の区画を「里」と呼びました。さらに、里の各辺を6等分し、溝や畦で「坪」と呼ばれる36の小区画に分けられました。これにより、土地のある場所は「何条何里何坪」と明確に表すことができました。

実際の条里は、南北一東西方向に限らず、地形に応じて区切られたようです。



【条里制の概念図】



【安佐南区の条里制】（『祇園新道誌』より）

用語説明 3～5ページに掲載された用語（※1～10）です

1 畿内（きない）

山城（山背）、大和（大倭）、河内、和泉、摂津の五か国をいう。五畿とも。

2 七道（しちどう）

ここでの道は、地域を意味する。東海道、東山道、北陸道、山陽道、山陰道、南海道、西海道の7つの地域。

3 駅使（えきし）

駅馬に乗用することが許された公的な使者。公務による出張で駅馬の利用を許された官人もこれに準ずる扱いを受けた。

4 駅鈴（えきれい）

官使（使者）の公務出張の際に朝廷より支給された鈴。使者は駅でこの鈴を鳴らし駅子と駅馬を調達していた。

5 駅馬（えきば）

駅戸によって飼育され、官道の大路の駅には20頭、中路には10頭、小路には5頭の馬が設置された。

6 延喜式（えんぎしき）

平安時代中期の三代格式（律令施行細則）の一つ。905年から927年にかけて編さん、967年に施行された。全50巻、約3300条からなる。巻28の兵部省関連の諸国伝馬条には、五畿七道の402か所の宿駅の名称と備えるべき駅馬や伝馬の数が記されている。

7 駅家（うまや）

官道沿いに整備された施設。30里ごと（約16km）ごとに配置されていた。重要路線の配置間隔は短くされていた。

8 駅長（えきちょう）

駅家を構成する駅戸の中から特に富裕かつ経験豊富なものが任命された。

9 駅戸（えきこ）

駅務に服する義務を負った特定の農民の戸（家）。駅田を耕作し駅馬を飼育し、駅務にあたる駅子を出す義務を負った。

10 駅子（えきし）

駅務に服した者。普段は駅馬を飼育しながら駅家に勤務した。駅使に駅馬を供給する際に、駅子1名が付けられて先導役を務めるとともに返却馬を駅家まで連れ帰った。

用語の読み方については諸説ありますが、本誌では上記の読み方とさせていただきます。



古代山陽道を歩く人たちのイメージ

平安時代中期に入ると律令国家支配体制の衰退と並行して駅制も急速に衰えを見せ始めます。地方治安の乱れ、駅伝役人の違法、監督者たる国郡司の不正などが続出し、駅家の運営は円滑性を失ってしまいました。平安時代末期にはその痕跡すらとどめなくなっただけのことです。しかし、奈良・平安時代の人々が行き交ったこの道筋は、時代とともにその姿形を変えながら現在へとつながっているものと思われまます。

律令国家支配体制確立の象徴として登場した古代山陽道ですが、時代が移って瀬戸内海航路の開発が進むと、海路による往来が重視されはじめ、次第にその存在意義も薄れていきました。

当時の記録（延喜式など）によれば、朝廷の財源に充てられる布・米・塩などを安芸国から宮都へ運ぶには、陸路では荷物のある上りが14日、荷物のない下りが7日とされ、海路では往復18日であったとされています。所要日数の短縮、さらには輸送能力の違いは注目されたことでしょう。



海路のイメージ

古代山陽道が利用された時代

律令国家の成立

大化の改新（645年）で、唐（中国）の律令にならった新しい政治の方針が示され、壬申の乱（672年）を経て中央集権化が進み、701年の大宝律令の制定によって、天皇を頂点とする律令国家が成立しました。

中央に二官八省の役所を置き、地方を国（くに）・郡（こおり）・里（さと）に分け、北九州に大宰府を設置。班田収授法（はんでんしゅうじゅのほう）を敷いて、人々に口分田（くぶんでん）を与え、租（そ）・庸（よう）・調（ちょう）・雑徭（ぞうよう）（労役）を課し、公民男子には兵役の義務を負わせました。

律令国家の盛衰

律令国家にふさわしい都として、唐の都の長安（今の西安）にならった平城京を造営。唐の文化や仏教の影響を受けた天平文化が開花、奈良時代中期は律令国家として最盛期を迎えました。

しかし、生活に苦しむ農民の逃亡、私有地の増加による公地公民制の崩壊などから、奈良時代後期になると律令国家の基礎が揺らぎ、これ以後、次第に崩れていきました。

平城京へ遷都後、律令制度の立て直しが行われましたが成功せず、9世紀後半には藤原氏による摂関政治が始まりました。摂関政治は藤原道長・頼通のときに全盛期を迎えましたが、11世紀後半になると白河天皇が上皇として院政を開始。一方、地方の荘園から起こった武士が次第に勢力を強め、平氏が政権を握り、武士の時代へと移っていきます。

時代	西暦	できごと
古墳	350	大和朝廷が国内をほぼ統一
	538	百済から仏教が伝わる
飛鳥	592	推古天皇が即位
	604	憲法十七条を制定
	607	小野妹子、隋に渡る（遣隋使始まる）
	630	遣唐使始まる
	645	大化の改新
	668	天智天皇（中大兄皇子）が即位
	672	壬申の乱
奈良	701	大宝律令を制定
	710	平城京へ遷都
	724	聖武天皇が即位
	752	東大寺の大仏開眼
平安	784	長岡京へ遷都
	794	桓武天皇が平城京へ遷都
	804	空海、最澄が唐へ渡る
	901	菅原道真、大宰府へ
	967	延喜式 施行
鎌倉	1146	平清盛、安芸守（あきのかみ）となる
	1185	平氏滅亡
	1185	鎌倉幕府、成立

古代山陽道が
利用された
時代

●本誌について

●安佐南区内の**古代山陽道**および**古道**に沿って今の道を歩きながら、各地にある史跡や由緒ある神社や寺院などの施設を紹介しています。

●本誌で紹介している施設は、**古代山陽道**および**古道**が利用されていた時代に関係の近い施設を各公民館を選んで紹介しています。

●楽しい歩き方

●**古代山陽道**および**古道**をしのびながら歩いてみましょう。

●おススメの歩き方は、地図にある**スタート**地点から歩きはじめ、番号順に紹介している施設を訪ね、**ゴール**地点が終着です。

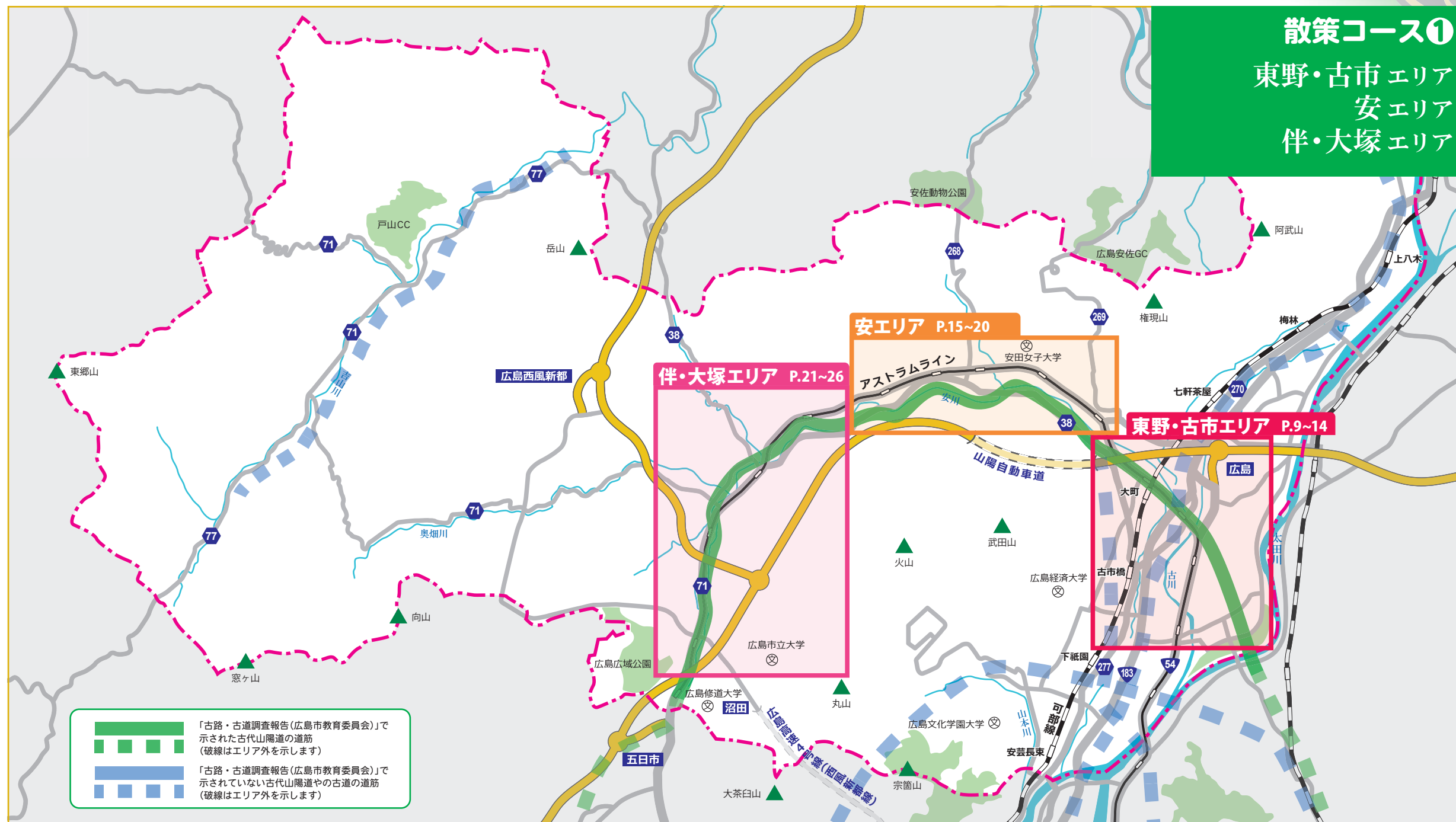
●もちろん、逆順や途中から歩きはじめてもかまいません。

●**スタート**と**ゴール**地点は、公共交通機関の駅や停留所に設定しています。

●紹介施設の中には常時公開されていない施設もあります。

●地図にある移動距離や時間は目安です。立ち寄った施設での滞在時間などは含んでいません。また、交通事情や歩き方で変動があります。

●歩く際は、体調や天候、交通事故などに気をつけて安全に歩きましょう。



散策コース①

東野・古市エリア
安エリア
伴・大塚エリア

安佐南区の古代山陽道

上図の緑色線で示している古代山陽道は、広島市教育委員会発行の「古路・古道調査報告」で示された道筋です。

「古路・古道調査報告」によると、太田川下流域の平野を横断した古代山陽道は安川の河谷を利用して西進しています。山や川の形状などから道路の構築が比較的容易な岸側に通っていたと推測されています。

また、ルートの比定と共に注目が集まる駅家の所在については、「延喜式」の載っている順序(本誌4ページの表)で紹介。その駅順は、安芸駅に続いて伴部駅、大町駅、種篭駅となっていますが、現在の地名にあわせれば、安芸、大町、伴、平良となること、それらの比定地について諸説を生む原因のひとつになっているとも。さらに、駅家間の距離が長かったり短かったりすることも、特定に至っていない原因であり、今後の駅家跡の発掘・発見が期待されるとしています。

散策コース①

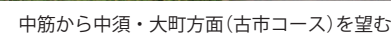
散策コース①は、広島市教育委員会発行の「古路・古道調査報告」で示された古代山陽道(旧山陽道)の安佐南区内を通っていた道筋(上図の緑色線)に沿って歩きます。

その道筋は東区戸坂から安芸大橋付近で太田川を渡り安佐南区東原へ入ります。中筋から大町を通り、安川に沿うようにして西へと進み、伴地区回りからはアストラムラインと重なりながら、佐伯区へと向かっています。

東野・古市エリアは東野公民館と古市公民館の区域です。古代の条里制の趣を残す住宅地を通り、古代から幾度も流れを変えた古川、安川を超えて歩きます。

安エリアは安東公民館と安公民館の区域です。安川に沿って古代山陽道の名残を探りながら古刹(こさつ)を訪ね歩きます。

伴・大塚エリアは沼田公民館と大塚公民館の区域です。戦国時代の山城跡などの歴史資産を眺めつつ、緑多い道を進みます。



しかし、当時作られた条里制の跡が確認できますので、これを詳しく調べれば、当時の太田川の流れを推定できるようです。そこから、現在は戸坂と東野を寸断している太田川



また、江戸時代以前は古川が太田川の本流で、佐東川と呼ばれていたようです。その流れは現在の太田川の流れとは違っていました。そして安川は、もっと西よりの武田山の裾



条里制の跡が物語る
悠久の流れに思いを馳せ

条里制の跡を確認し、太田川、古川、安川の流れを推定しつつ、古代山陽道に思いを馳せながら散策してください。

散策コースの紹介

太田川近くの住宅地から安川沿いまで、平坦な道をのんびり歩く散策コースです

東野コースは、アストラムライン開通後に急速な宅地化が進んだ地域です。住宅地とわずかに残った田畑を眺めながら歩きます。途中に見られる条里制の跡から古代山陽道の頃の面影を見つけることができます。

古市コースは、県道459号線沿いの古い街並みを抜け、安川緑道(旧安川跡)や安川付近の緑が楽しめる気持ちのよい散策コースです。阿武山や武田山を背景に安川の流れの移り変わりなど古代の地形に思いを巡らせながら散策を楽しんでください。



住宅地の街路区画に 条里制の面影を見る

アストラムライン西原駅から、オノ木神社までのコースです。

祇園新道の西原駅南交差点を左に折れ、平成橋を渡ると古川土手の交差点に出ます。そこを右折し100mくらい進むと 浄玄寺の屋根が確認できます。

浄玄寺から北上し、瑞穂神社を右手に見ながら進むと、右手の安芸大橋とつながる大きな道路に出ます。そこを左折し三差路に出たところで北上します。途中、今は車道になった条里制の区画の跡を確認できます。

歩くこと数分。東野小学校の正門前で斜め左へ進むと、善教寺を見つけることができます。東野公民館の前を通り、今は車道になった古い道を武田山方向に西へ進むとアストラムライン中筋駅に到着します。

祇園新道を横断し、安佐南区民文化センターへ向かう道を進みます。

古川の古い堤防に出たところを右折すると、まもなくオノ木神社の森が右手に見えます。



東野コース

歩く距離 約3.5km

歩く時間 約45分

スタート アストラムライン 西原駅

↓ 約600m・約8分

1 浄玄寺

↓ 約400m・約5分

2 条里制の跡

↓ 約600m・約8分

3 善教寺

↓ 約1500m・約19分

4 オノ木神社

↓ 約400m・約5分

ゴール アストラムライン 中筋駅

散策コース

古代山陽道推定の道筋

1 浄玄寺

戦国の武将が開基 度重なる災害を乗り越え

毛利の武将福島三河守親綱が、剃髪し超正と号し開基。享保2(1717)年に本山より浄玄寺号を許されました。現在の本堂は昭和4(1929)年築。昭和18年の大水害や原爆投下による強烈な風圧にも持ちこたえています。



3 善教寺

東野の歴史を突き鳴らす 大戦をくぐり抜けた梵鐘

元は禅宗で彼岸院と称したが、長享2(1488)年宗教門の時に真宗へ改宗、宮前山と号し、善教寺と称しました。広島超専院の末寺です。本堂の廊下に吊ってある梵鐘は元老5(1692)年、藤原宗久という鋳物師の作。



↑ 善教寺の梵鐘。
戦時中の供出を免れたこの鐘には、二体の天女と、その鐘を取り巻く唐草模様が浮彫で施されています。



2 条里制の跡

大化の改新後の区画整理事業 街路に見られる面影

河川改修などで、その跡の多くは失われましたが、その一部を街路に見ることができます。

↑ 東野地区に残る「条里制の跡」の地図。昭和52年の地図で、長方形の「条里」(黄色い線)が見えます。



4 オノ木神社

水軍の将が崇拜 戦の勝利を祈願

元の名は八幡さん。拝殿の額には「八幡宮」とあります。明治4(1871)年に現社名に改称。この神社を厚く崇拜、祈願所とし神田(しんでん)等を寄付したのが「川の内警固衆」と呼ばれた水軍の将、福島大和守です。杉山家に伝わる古文書によると、天保6(1835)年には拝殿も本殿も共に改築されており、その時の神木で作ったことを書き添えた武者絵など注目すべき絵馬が、拝殿に何枚も見られます。境内には盃状穴(はいじょうけつ)が多数見られる手水鉢があります。

← オノ木神社の武者絵

盃状穴

オノ木神社の現在使われていない古い手水鉢に、盃状穴がたくさん見られます。その内の5個はセメントが詰めてありますが、その理由は不明です。

子どもを授かりたい願いからか、それとも病気全快への祈りからか、おそらく、深夜のお百度参りのようにひそかにお参りして、小石を手に手水鉢を叩きながら、あるいは小さくグルグル回しながら一心に祈りの言葉を繰り返しながら彫ったと思われる。



手水鉢の縁にある盃状穴(写真中の矢印)

2 久保山神社

御神木の大イチョウが目印 火祭りを毎年開催

江戸時代の文献「芸藩通志」には山王社と記されています。祭神は、大山祇命、大日貴命。天保5(1834)年に古市地区の大火で焼失しましたが、後に再興。明治4(1871)年、村社となり久保山神社と改称。毎年大火を記念した火祭りが行われています。



焼け残ったイチョウの木でご神体

大火の際、焼け残ったイチョウの木で彫刻したご神体は二体あり、一体はこの恵美須社にあります。もう一体は中区の胡子神社に運ばれましたが、原爆で焼失しました。何故、中区の胡子神社に運ばれたかは、諸説あるのですが、謎のままになっています。

1 浄宗寺

雲石街道に面した 鐘楼門のあるお寺

天正年間(1573~1591年)僧浄具が開基し当時は天台宗。元禄4(1691)年に時の住持寿礼(県史では寿福と記載)が改宗して真宗となりました。もとは中筋切戸にありましたが、明治35(1902)年に現在の地に移りました。



3 中須稲生神社

ナス形の手水鉢から 「大願成就を成す」に通じる

社伝によると奈良時代以前の神社とされています。祭神は宇賀之魂神。文化2(1805)年に社殿を再建しましたが、昭和20(1945)年に焼失、その後再建されました。境内入口の手水鉢には盃状穴が見られます。



4 麦田八幡神社

古くから郷土の産土神 境内に縁結び地蔵とお助け地蔵

この村に居住していた安芸守護武田氏縁の麦田氏が天文年間(1532~1555年)に社殿を造営し、菱山神社と名付けて同家の氏神としたのが始まりとされます。武田氏滅亡後、麦田氏も滅びたため麦田八幡宮と改め、広く郷土の産土神として祭ってきたと伝わっています。



東野・古市

ひがしの・ふるいち



雲石街道と安川沿い
古代の道を探り歩く

アストラムライン中筋駅より、上大町バス停までのコースです。

中筋駅から西に向かい、オノ木神社を左手に見ながら、三川橋を渡り、古市の県道459号線を左に折れ、浄宗寺につきます。ここから後戻りして久保山神社入口の看板を横に見ながら一里塚跡を通り、麻の苧扱ぎ(おこぎ)の作業時の通路であった石畳みの坂を右に見て、道路を渡ると久保山神社に着きます。神社の西の小路を北に向かうと、軽便(けいべん)鉄道跡に出て、横土手から交番前の国道183号を渡り、旧安川左岸(万歳土手)に上がります。そしてアストラムライン下を横断し、安川緑道から中須稲生神社に着きます。再び安川右岸を上がり、JR可部線の踏切を渡って、安方面に向かうと、麦田八幡神社に着きます。江戸時代、神社西の道が広島城下と安方面を結ぶ道だったようです。安川は、西よりの武田山の裾野あたりを流れていた、と推定する説もあります。皆さんも川の流れを想像しながら、散策してください。

古市コース

③ 田中山神社

銀山城鬼門封じの宮
信仰厚い産土神

安芸の国守護職武田信宗が、正安元(1299)年、銀山城築城の際、鬼門封じとして勧請したと伝えられています。
上安村、相田村、高取村の産土の神として厚く信仰されていました。



② 佐信神社

田畑の豊作を祈願
言代主神を祭る

小字「佐信」の田の中にあった社を、山の上に祭ったそうです。佐信は狭野田(さのぶ)また佐乃富(さのぶ)に通じ、田畑の神、豊作・保食の神を祭ったもので祭神は言代主神と広島史は伝えています。



⑥ 萩尾山神社

萩尾山の守護社
地元では、えべっさん

明応3(1494)年、銀山城主武田元綱から繁綱への下知で大利山に建立され、元文5(1740)年に現在地へ遷座し長年「八幡さん」、「えべっさん」と呼ばれ親しまれてきましたが、明治維新の時、萩尾山神社となりました。



⑤ 萩尾山神社の石灯籠

古代山陽道を照らす
願いを込めた盃状穴

古代山陽道と推定される道沿いに建つ萩尾山神社の石灯籠。ここを曲がれば萩尾山神社へと続く参道となっています。この付近は旧道の雰囲気が残る街並みです。基礎石の部分には昔、女性が願掛けをした盃状穴が幾つもあり、厚い信仰があったことを伝えています。



↑ 枝を大きく広げた正伝寺のクロガネモチ。
広島県天然記念物指定当時(昭和28年頃)の写真

⑧ 正伝寺

武田家の菩提寺
クロガネモチは天然記念物

寛和元(985)年、僧恵空が武田山北麓に阿弥陀寺を建立。慶長元(1596)年、現在地に移り正伝寺と改めました。境内に福島正則が朝鮮より持ち帰ったと伝えられる広島県天然記念物のクロガネモチがあります。



① 二ノ宮八幡神社

相田村下相田と大町村麦田
川尻の総氏神様

南部兵庫介が大鳥田に在城の時、字迫谷に産土の神として八幡神を勧請。
大永3(1523)年、大雨による山津波で社殿が、現在地まで押し流され、そのまま鎮座。大町の麦田神社はここから勧請されました。



④ 往来安全の道標

本道から分かれ道へ
行き先を示す石碑

元上安公会堂前の三差路に、明治9年に設置された「往来安全」の道標があります。筏を操って太田川を下った竿師が、この地から加計方面へ帰って行ったそうです。石碑の下部には各地の里程が掘り込まれています。



石州	加計	庄原	本郷
濱田	工	工	工
十八里	七里	六里半	六里
各地への里程			

⑦ 相田薬師堂

「安の目薬」原田家の薬師堂
眼病治癒の泉水は原爆献水に

室町時代に甲斐の国(山梨県)から移り住んだ「安の目薬」の原田家の薬師堂として建立。お堂下にある泉の清水は眼病治癒の霊験があり、その他にも、酒造りや原爆献水にも使用されていました。



相田・安コース

歩く距離 約5.9km

歩く時間 約75分

スタート

アストラムライン 毘沙門台駅

約900m・約11分

① 二ノ宮八幡神社

約1000m・約13分

② 佐信神社

約800m・約10分

③ 田中山神社

約300m・約4分

④ 往来安全の道標

約500m・約6分

⑤ 萩尾山神社の石灯籠

約300m・約4分

⑥ 萩尾山神社

約200m・約3分

⑦ 相田薬師堂

約1000m・約13分

⑧ 正伝寺

約900m・約11分

ゴール

アストラムライン 上安駅

散策コース

古代山陽道推定の道筋

安川の流通で繁栄
新旧の道を比べ歩く

毘沙門台駅から山沿いを西へ進み石神社前を通り、左側に横断歩道の見える四つ角を右折すると見えてくる石灯籠を右折、坂道を上ると二ノ宮八幡神社です。石灯籠を直進すると安東公民館を過ぎ安東駅に至ります。ここから見える安田女子大学正門横の丘の上に、佐信神社があります。さらに山沿いの道を西へ進むと田中山神社です。

標の前を通り安川沿いを右折、安川橋を渡り県道38号線手前に左に入る細い路地を進むと萩尾山神社の石灯籠があります。ここを右に曲がり県道38号線を渡り直進すると萩尾山神社の石段の下に出ます。石段から山沿いの道を西へ進んでいくと相田薬師堂に到着。相田薬師堂から安川橋まで戻り、安川沿いを西へと進み、安中央橋東側の信号を渡り、さらに西へと進んでいくと左側に正伝寺があります。正伝寺前の正伝寺橋を渡って県道38号線の信号を横断、右へと進む細い道を進むと安公民館の入口に出ます。そこを左に曲がって進むと上安駅に到着。

相田・安コース

光明寺の鰐口(わにぐち)。
正安2(1300)年の作
と伝わっています。



3 伴安恵美須神社

旅人の夜道を灯す常夜灯 長楽寺門前町の氏神様

勧請年代や由緒は不明。古代山陽道と推定される道に参道入口があり、旅行く人のための常夜灯が設置されています。境内には武田氏の隠里を守った武士たちの霊を祭る「おんばんさん」と呼ばれる祠も。



参道入口。
常夜灯が夜道を照らし、
旅人の道標に



伴安恵美須神社にある
「おんばんさん」の祠

5 新宮神社

廃長楽寺と長楽寺村の 氏神様として信仰厚い

勧請年代は不明。元は山の高いところにあったのですが女性、子供がお詣りしやすいように現在地へ移りました。境内に立つイチイガシの樹は、広島市の天然記念物。



2 光明寺

鎌倉時代後期の鰐口と 江戸時代の山門が迎える

弘安2(1279)年に夜珠の庄(荒谷山)鷹取長瀧ヶ窟に円妙院を建立したのが始まり。それから200年後に現在の地に移り、寺名も光明寺に改められました。銀山城主の武田信光の時、この寺を鬼門鎮護の道場としたそうです。



1 鶏頭原薬師堂

「安の目薬」野村家が祭る 本尊の薬師如来は伝行基作

元禄年間(1688〜)に野村家第六代正悦が再建。その昔、上安村に武田氏祈願所の鶏頭院が有ったが武田氏滅亡後、本尊の薬師如来を野村家に移し祭った。初代野村伝三郎は、「安の目薬」の創始者。



4 廃長楽寺

かつては七堂伽藍を有す壮大な寺院 戦国武将の福島正則により廃寺へ

延喜5(905)年に真言宗の霊場として開かれ、戦国時代には武田氏や毛利氏の祈願所として繁栄し、当時は荘大な寺院だったそうです。慶長6(1601)年、広島城主となった福島正則が寺領を没収したため衰退し、廃寺となり、長楽寺という地名だけが残りました。今でも境内跡地には鐘楼、鎮守社(厳島神社)などがあり、往時の繁栄を忍ばせてくれます。廃寺となった後、村人達により境内跡地に観音堂が建立され、以来33年ごとに御開帳され本尊の観世音菩薩を拝むことができます。



門前橋



長楽寺跡の石碑



長楽寺観音堂



仁王門跡



鐘楼



鎮守社(厳島神社)



高取・長楽寺コース

歩く距離 約3.4km
歩く時間 約45分

- スタート アストラムライン 上安駅
- ↓ 約400m・約5分
- 1 鶏頭原薬師堂
- ↓ 約600m・約8分
- 2 光明寺
- ↓ 約1200m・約16分
- 3 伴安恵美須神社
- ↓ 約600m・約8分
- 4 廃長楽寺
- ↓ 約300m・約4分
- 5 新宮神社
- ↓ 約300m・約4分
- ゴール アストラムライン 長楽寺駅

散策コース
古代山陽道
推定の道筋

地名に残る長楽寺 石段に当時をしのぶ

上安駅から西へ進み、上安交差点を安小学校方面へ左折、信号に至る手前の小道を左折し坂道を上ると、鶏頭原薬師堂に至ります。安小前交差点を渡り右折して広島市信用組合安支店の角を左折して進むと安川に。安川の手前に、相田村・上安村の境界の石碑が建っています。中河原橋を渡り右折した安川沿いの小道の傍に正戸の石仏のお堂が建っている。

門前橋たもとまで戻り、橋を渡って坂道を上ると仁王門跡を経て富士川游顕彰碑に至ります。石段を登れば廃長楽寺境内です。廃長楽寺の横手の道を通れば新宮神社へ。新宮神社の参道を東に下り道路沿いに進むと、長楽寺駅に到着します。

ます。さらに西進すると安川の向側に光明寺が見えてきます。安川の右岸を進み、平和台団地入口を過ぎた所に田中重太郎顕彰碑が佇んでいます。さらに進んで見えてくる橋(長楽寺門前橋)のたもとで左へ分岐する坂道を上ると伴安復興記念碑に至り、そこを右折して進むと伴安恵美須神社の石灯籠と参道の石段。

高取・長楽寺コース

とも おおづか 伴・大塚

沼田公民館
大塚公民館

地域に残る地名が語る 当時の駅家有力候補地

承平年間（931～938）にかけて編集された我が国初の百科辞典「倭名類聚鈔」には、当時の国、郡、郷名が列挙されています。現在の伴地区が含まれていたとされる佐伯郡には、計12の郷が記されています。これらの郷名を現在のどの地区にあてはめるかは、古来よりいろいろ試み

られています。このうちの駅家「伴部駅」は、現在の伴東地区辺りで、土茂（伴部）は現在の伴地区ではないかと言われています。伴地区における古代山陽道については、國重城跡から古代の竪穴式住居跡が発掘された等の点から、平地の安川南沿を経路している、また

は、養峠（ようたお）が当時の律令制における税制から由来している等、これまでさまざまな所見があげられています。しかし、それらを結論づけるような史跡等が未だ発見されていないため断定することは極めて困難と言えます。また、大塚地区には、古代山陽道

を直接にしのばせるような史跡は残っていませんが、中世の山城跡である岸城周辺を通っていたとの伝承があり、この地区の立地や地勢を考えると、この地を古代山陽道が通っていたことは、想像に難くないと思われます。

散策コースの紹介

伴・大塚地区の歴史的資産となっている中世の史跡等もあわせて巡り、豊かな自然も感じることができると言えます。

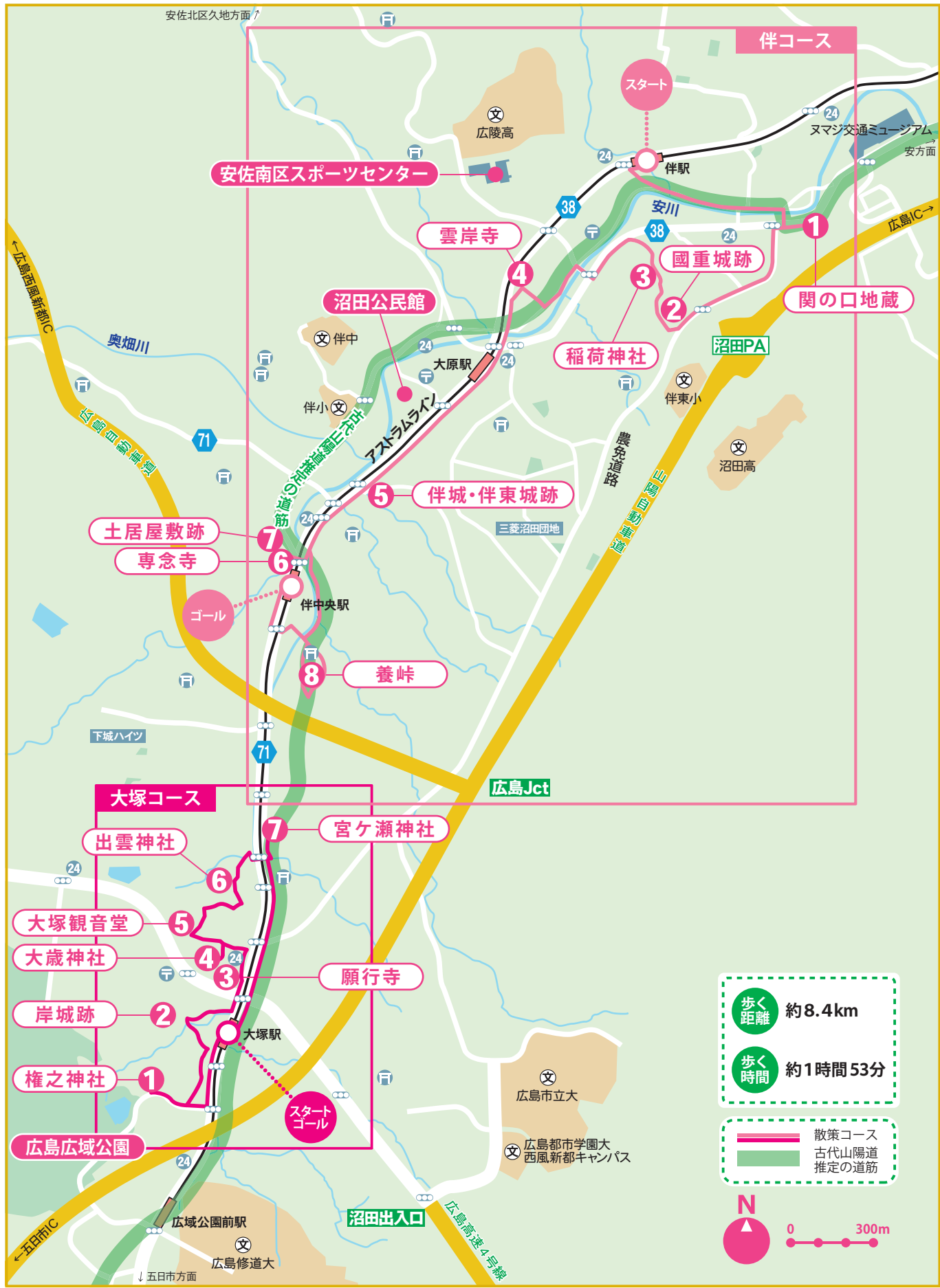
伴コースは、アストラムラインの伴駅から伴中央駅までの範囲で、安川沿い付近を中心に進むコースとなっています。古代のロマンや自然を感じながら散策してください。

大塚コースには、ツインタワーに象徴される近代的な都市空間を背景に、歴史と文化を感じさせる寺社や史跡が点在しています。古いものを大切に守りながら、新しいものを受け入れてきた知恵と優しさに触れることができます。

沼田大原台第一公園から沼田公民館方面を見る。
地域の中央を分断するかにアストラムラインが走る



広島市立大学(手前)上空から西風新都方面を見る。
アストラムライン(写真中ほど)とツインタワーに挟まれた地域に大塚コース



3 稲荷神社

宇迦之御魂神を祀る
スクモ塚跡に建つ

國重城跡から坂道を下ると見えてくる神社。ここには「スクモ塚」と呼ばれていた小山がありました。境内には、岡野地藏尊や蛇神を祀る祠、子ども神楽を練習する建物があります。



2 國重城跡

天下分け目の戦いに敗れるまで
国重氏の山城

武田信賢の次男、右衛門大夫信恒がこの地を領し、以後國重氏を名乗って毛利氏に仕えたといわれています。遺構の下から、弥生後期～古墳前期の生活遺跡が見つかり、貴重な事例となりました。



昭和56年の発掘調査にて

5 伴城・伴東城跡

武田方最後の戦いの山城
伴城は造成工事で消失

伴東城跡からは、数カ所の郭や塹堀等が確認され、備前焼等の陶器片も出土しています。伴北城、伴城、伴東城があり、これら3つの支城から、現在の地名「三城田」の由来になったと伝えられています。



左の山が伴東城跡、右の山が伴城跡(昭和60年撮影)

8 養峠

古代山陽道の趣を残す
竹林を抜けて大塚へ

「養」は当時の律令制にある、租税の「庸(よう)」に由来するのではないかとされています。峠を越えて大塚方面へ続いており、古風な趣が今もあります。養峠を登り切った民家の庭先に小さな地藏さんが祭られています。



7 土居屋敷跡

屋敷跡に残り開かずの大石
「伴部駅」跡地とも伝わる

専念寺の左裏手の田んぼ内にあり、『延喜式』に記されている「伴部駅」の駅舎跡がこの地にあったのではないかとされています。各所に残る丁(よほろ)や養(丁)峠、前原(駅家からの転訛)等の字名がその昔をしのばせます。



土居屋敷跡に残る開かずの大石

4 雲岸寺

県的重要文化財に指定
一木造りの阿弥陀如来像

元は禅宗あるいは真言宗であったとも。開基は不明。寛文2(1662)年に書かれた縁起には、寺名は岩崎山雲岸寺、阿弥陀仏は弘法大師空海の作、元就時代の毛利氏から崇拝を受けた等の記載があります。



雲岸寺の阿弥陀如来坐像(広島県重要文化財)

6 専念寺

福島正則がまとめた寺院
木造阿弥陀如来半跏像は市重文

龍池山専念寺、浄土真宗本願寺派で、もとは天台宗でしたが、慶長8(1603)年に真宗に改宗しました。左足を垂れて足先を小蓮座に座す珍しい木造阿弥陀如来半跏像は、市の重要文化財に指定されています。



阿弥陀如来半跏像(広島市重要文化財)



伴・大塚

とも・おおづか

伴コース

駅家「伴部」の有力地
古代の夢あふれる地

アストラムラインの伴駅から安川沿いに東へ進み、下向橋を渡って県道38号線に入ると、駐車場の奥に関の口地藏が供養されているお堂があります。農免北交差点から農免道路をしばらく登ると、沼田高校入口の信号近くに倉庫が見えます。その場所が國重城跡です。そこからすぐの小道を右に入り、坂道を下ると見えてくるのが稲荷神社です。県道38号線に戻り、安川沿いに西へ進んで保育園がある通りに入ると、雲岸寺が見えてきます。

アストラムライン沿いを南下し、大原駅を過ぎてしばらく進むと、衣服店等が見えてきますが、この辺りに伴城・伴東城跡がありました。さらに進んで、寺組橋(南)交差点を渡ると専念寺。専念寺裏手の田んぼ内にある土居屋敷跡には、開かずの大石が残っています。元の道に戻って信号を渡り、大塚川沿いの脇道に入って黄幡神社の外周に沿って進むと養峠に至ります。木々に囲まれた小道が古風な趣を感じさせます。

3 願行寺

経蔵に描かれた鰻絵
龍や鯉が踊る

かつては天台宗伝弘寺と称し、のち真宗に改め、安永4(1775)年に東岸山願行寺になりました。経蔵の軒下には、コデで仕上げた龍や鯉などの鰻(こて)絵が描かれています。



経蔵にじっくり描かれた鯉や龍の鰻絵(右側上下)

5 大塚観音堂

市重文の観音様
眼病に効く清水が湧く

堂内には弘法大師の作で可部福王寺の立木像の二番木で作られたといわれる、木造十一面千手観音立像(広島市の重要文化財)が安置されています。この堂は、岸城主大塚氏がこの像に感応して建てたと伝えられています。かつては境内に清水が湧き出て、眼病に効く霊験あらたかな清水といわれました。



2 岸城跡

厳島神社神主家が創始
中世の山城跡

城主は大塚四郎兵衛と伝えられており、「沼田町史」には、鎌倉時代に厳島の神主家であった佐伯氏の一族が土着武士化し、大塚氏を名乗ったと記してあります。古代山陽道がこの付近を通過していたといわれています。



↑ 階段の奥に観音様が祭られています

1 権之神社

信仰厚い地元の氏神
鎌倉時代の豪族の名が由来

中講地区の氏神として祭られています。勧請年代、祭神ともに不詳。鎌倉時代にこの地に住んでいた権守入道の名が「ごんのかみ」という地名になり、それが社名の由来になったといわれています。



4 大歳神社

当地最古の神社
耕作の神を祭る

創立年代、由緒共に不詳ですが、この地が開拓された頃から、耕作の神として祭られています。大塚では音崎神社と共に最も古い神社と考えられています。



6 出雲神社

大国主命が守護神
地元では「ジョンシキサン」

出雲大社の祭神大国主命(大己貴神)が、この地の守護神として祭られており、地域の人達の幸福と商売繁盛を祈っていると伝えられています。地元では、親しみを込めて「ジョンシキサン」と呼ばれています。



「ジョンシキサン」は、当地の字名「城野岸」からか?

7 宮ヶ瀬神社

旧大塚村の氏神で村社
新道建設で移転

創立、勧請年代は不詳ですが、旧大塚村の氏神であり、村社であったといわれています。伝承では、元大塚の城主大塚四郎兵衛義清が東谷の地に勧請し、その後宮ヶ瀬の地に移転したとのことですが、アストラムラインの建設に伴い現在地に移転しました。境内には、安永3(1774)年銘の hands 鉢があり、多くの盃状穴がみられます。



盃状穴のある hands

大塚コース

歩く距離 約3.3km

歩く時間 約45分

スタート アストラムライン
大塚駅

↓ 約500m・約7分

1 権之神社

↓ 約500m・約6分

2 岸城跡

↓ 約350m・約4分

3 願行寺

↓ 約300m・約4分

4 大歳神社

↓ 約200m・約3分

5 大塚観音堂

↓ 約300m・約4分

6 出雲神社

↓ 約350m・約5分

7 宮ヶ瀬神社

↓ 約800m・約12分

ゴール アストラムライン
大塚駅

散策コース
古代山陽道
推定の道筋



伴・大塚

とも・おおづか

大塚コース

都市と共存する旧跡
田園地帯の古道散策

アストラムライン大塚駅から広域公園前駅方面へ向かい、広域公園北入口交差点の坂道を登って行くと、右手に権之神社への石段があります。権之神社から引き返す途中で左折し、道幅の狭い住宅街を抜けると、目前に田園風景が広がります。西方面のこんもりとした小山の岸城跡を見ながら、アストラムラインをめざして、細い坂道を下ります。

アストラムラインに沿って伴中央駅方面へ進み、大塚駅北交差点を渡った角に願行寺があります。寺の前を進むと小さな十字路があり、そこを左に曲がって行くと三差路があります。そこから左手に行くと道沿いに大歳神社があります。神社から引き返して田園地帯沿いの細い道を東に進んで行くと大塚観音堂、さらに進むと出雲神社があります。住宅街を抜けてアストラムライン沿いに戻ると宮ヶ瀬神社です。

宮ヶ瀬神社から大塚川に沿って南下すると大塚駅に到着します。

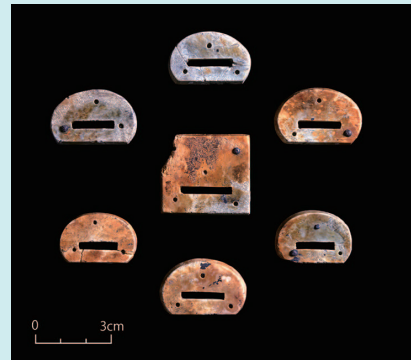
地方役人のベルト飾り

せき たい 石 帯 (石製帯飾)

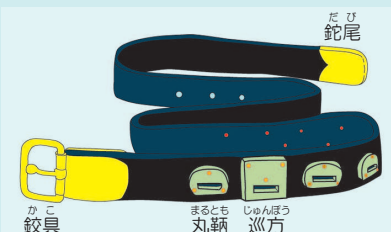
奈良・平安時代の役人が正装するときには黒い革製の帯を着けていました。帯には、その人の官位を示す方形や半円形の石製の飾りが付けられており、これを石帯〔石製帯飾（せきせいおびかざり）〕といいます。

祇園エリアの長東西小学校と長東中学校の建設予定地内にあった権地古墓（ごんちこぼ）から昭和57年に、7点の石帯が発掘されました。

これらは、全国的にみても出土例が稀で、貴重な資料として広島市重要有形文化財となっています。



権地古墓から出土した石帯（石製帯飾）
【（公財）広島市文化財団文化財課提供】

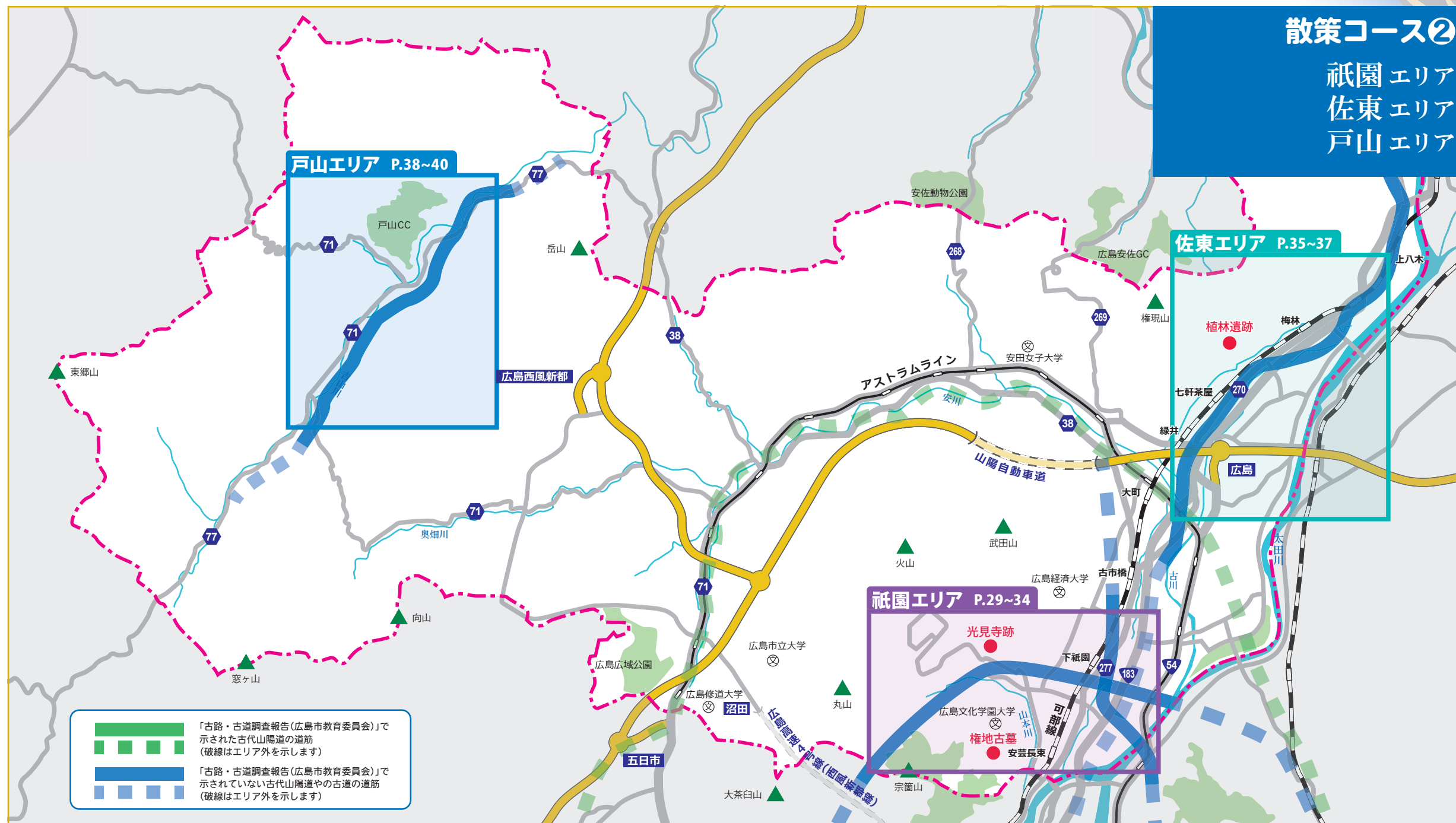


石帯の復元図

【（公財）広島市文化財団文化財課提供】

散策コース②

祇園エリア
佐東エリア
戸山エリア



散策コース②

散策コース②は、広島市教育委員会発行の「古路・古道調査報告」に示されていない区域の紹介です。それぞれの公民館が推奨する道筋（上図の青色線）に沿って歩きます。

祇園エリアは祇園公民館と祇園西公民館の区域です。古代山陽道が東区戸坂から太田川を渡って西原から山本を横断し西区己斐へ通っていたと想定した道筋と、東区牛田から祇園を通って大町へ縦断していたと想定した道筋に沿って歩きます。弥生時代の集落跡や古墳などから発掘された鉄製品や瓦、装飾品などが歴史を物語っています。

佐東エリアは佐東公民館の区域です。広島と島根県の出雲大社や石見地域を結ぶ雲石街道に沿った史跡を紹介しています。区域内に点在している史跡を紹介しています。

戸山エリアは戸山公民館の区域です。明治時代後半に地域内を縦断していた往還（街道）に沿って、自然を感じながら歩きます。

古代の瓦

7世紀後半頃になり、各地の豪族はそれまで権威の象徴であった古墳に替えて、6世紀中頃に伝わった仏教の寺院を建てるようになります。当時、瓦でふいた屋根は宮殿や役所、仏教寺院など特別な建物にしかなく、権威を象徴していました。

光見寺跡の軒丸瓦

山本七丁目で字名が「光見」の地にあった光見寺跡から2種類の瓦が発見されました。花弁に子葉がない瓦（素弁蓮華文軒丸瓦）と、複数の子葉を重ねた瓦（複弁蓮華文軒丸瓦）で、前者は白鳳時代のもので、後者は奈良時代のものでいわれています。



花弁に子葉のない
素弁蓮華文軒丸瓦

複数の子葉を重ねた
複弁蓮華文軒丸瓦

植林遺跡の軒丸瓦

佐東エリアの緑井地区の権現山の山麓にある植林遺跡から出土。この瓦は白鳳時代（7世紀後半）のものと考えられています。単品で出土したので断定はできませんが、古代寺院だった可能性もあります。

祇園

祇園公民館
祇園西公民館

祇園エリアは旧祇園町のうち東原を除く地域で、古川、太田川の河川と武田山、火山、丸山、宗箇山の稜線の間に位置しています。

このエリアでは、武田山に銀山城（金山城）を構えていた武田氏に關わる遺跡や武田氏ゆかりの社寺はよく知られていますが、それ以外にも、弥生時代後期以降の遺跡などが数多くあります。武田山、火山、宗箇山の山麓の少し高い位置には、竪穴式住居跡、掘立柱建物跡などからなる寺山遺跡を始めとする弥生時代後期の集落跡が多く確認されています。また、古墳時代の武器、鏡、玉類などを副葬した三王原古墳、県内でも規模の大きい古墳の一つである池の

内第2号古墳、全国でも珍しい鉄製品が出土した空長第1号古墳など多くの古墳が確認されています。さらに、山本・長束地区や祇園地区には奈良時代の条里制の痕跡も見られるなど、このエリアの歴史の厚みを物語っています。

字名が示す役所の所在

古代山陽道がこのエリアを通過していたことを証明する確実な証拠や文献は現在のところ見当たりません。しかし、山本地区の古地図に、字名（あざな）として、道の管理者の館を表す「道河内（道垣内か）」（山本九丁目9番地）、その西、眞幡神社（眞幡社）の所に「大伴」があり

古地図に残る字名から推測 祇園地区を通る古代山陽道

ます。さらに、その西隣には役所があった所を表す「官鍛（かんが）（官衙か）」（山本八丁目で立専寺の西）があることや少し離れた所に「馬場」（山本七丁目で専念寺付近）という字名の存在から、古代山陽道の駅家「伴部」がこのエリアの山本地区にあり、ここを古代山陽道が通っていたという考えも示されています。

この山本地区をさらに西へ進み、己斐峠の南東には「大道」という字名があり、この考えを大きく裏付けるものです。

発掘された高官の装飾品

奈良時代には現在の山本七丁目に瓦で屋根をふいた光見寺が建立されていました。また、県内でも数が少なく、比較的高い官位である七位以上の人物の「石帯（石製帯飾）（せきせいおびかざり）」が昭和57年、長東西一丁目の権地古墳（ごんちこぼ）から発掘されました。これは駅家の駅長の墓ではないかとも考えられています。



【古地図に表記されている字名と現在の地図】
①上八日市 ②帆立 ③出口 ④道河内
⑤大伴 ⑥官鍛 ⑦光見光見寺跡 ⑧馬場



※遺跡・古墳・古墳は宅地造成等のため消滅
※空長第1号古墳は空長古墳群の中の古墳の一つ。池の内第2号古墳は池の内遺跡の中の古墳の一つ



東区牛田から見た祇園エリア。
正面に火山がそびえ向かって右に武田山。
●印は、駅家の想定地

これらのことは「伴部」が山本地区にあったとの推論を助けるものと思われる。

さらに、長束・西原・祇園地区についても、安芸国の政治勢力の中心が安芸国府中に置かれた頃は、山陽地方の大動脈道路としては、府中から矢賀、牛田を経て太田川を渡り長束、西原、祇園、大町、伴を通り石内に向かう官道があったとされていることから、この地域を古代山陽道が通っていたことも考えられます。

散策コースの紹介

祇園・山本コースでは、古代山陽道が武田山、火山などの南の麓を通過しており、さらに駅家が火山の麓（東垂ニュータウン春日野の下）にあったと想定して、祇園地区や山本地区の寺や神社などを巡ります。途中の迫公園近くでは、現在の山本地区を見渡して古代の様子を思い描いてみてください。

長束・西原・祇園コースは古代山陽道が長束へ大町を通過していたことを想定して、長束地区や西原地区の寺・神社などを巡ります。この地域は、古代から中世にかけて八日市が立ち、商業地域だったといわれています。

3 おお とし じん じゃ 大利神社

農業の神を祭る
小山は農地埋め立てで低く

青原(祇園四丁目)にある小山に歓喜寺と共に鎮座しています。農業祖神である大年の神を祭る神社。昭和に三菱重工拡張で田を埋設するため土を採取し、小山が低くなりました。今の神社、寺院は戦後に再建。



6 ま はた じん じゃ ま はた しや 眞幡神社(眞幡社)

旧東山本村の村社
大イチョウは地区のシンボル

黄幡神を祭り、おんぱんさんと呼ばれ崇拝されていました。ある時、御神体が比治山に移されたため、江戸時代末期道先案内の神猿田彦命を勧請しました。その後「眞幡神社」と改称されました。この地の字名は「大伴」で、5世紀代以降で「大伴氏」の支配下にあった可能性がある土地柄です。三王原にあった山王権現が合祀(し)されています。



9 ひら やま はち まん じん じゃ 平山八幡神社

毛利元就が嫡男の武運長久を祈願
宝殿の大棟に一文字に三ツ星が

天文12(1543)年、大内義隆によって造営されたと棟札に記されています。祭神は八幡神です。永禄3(1560)年には毛利元就が息子隆元の武運長久と国家安全を祈願して宝殿(本殿)を新築したと棟札に記されています。宝殿の大棟には毛利の家紋があります。



2 あ き つ ひこ じん じゃ 安芸津彦神社

古くは厳島神社の祭礼と関係
祭神は安芸津彦命と安芸津姫命

元の名は官幣社といい、寛永元(1624)年青原の地に創建されました。祭神は安芸津彦命と安芸津姫命です。天保2(1831)年火災に遭い、現在地に遷座しました。明治5(1872)年に社号が今の名前に改められました。



5 さこ ごう えん 迫公園

公園内に石棺の蓋石
古墳は住宅地へ

公園の片隅に近くで出土した三王原古墳の石棺の蓋石が置かれています。三王原古墳があった場所は住宅地になっています。ほぼ同じ場所に山王権現があったといわれています。



8 せん ねん じ 専念寺

禅宗から浄土真宗へ
大谷派から本願寺派へ

古くは禅宗でしたが、元龜3(1572)年、僧了心が浄土真宗に改宗し、清徳山正専寺と称し、浄土真宗大谷派に属しました。その後、明治41(1908)年に本願寺派に転派して、清徳山専念寺と改めました。



1 やす じん じゃ 安神社

元の名が町名の由来に
武田氏が当地へ社殿建立

元の名は祇園社。当初、松尾山(祇園中学校付近)にありましたが、正安元(1299)年兵火によって焼失。幸い御神体は御旅所(現在地)にあつて難を免れ、嘉元年間(1303~1306年)、武田氏がこの地に社殿を建立したと伝えられています。

4 かん き じ 歓喜寺

廃仏毀釈(きしゃく)から逃れ
安神社から当地へ移転

元感神院と称し、元慶8(884)年松尾山に開基し、松尾山徳達寺と称しました。天正11(1583)年現在の安神社の境内に移されました。廃仏毀釈(きしゃく)に遭う可能性があるため、明治4(1871)年に今の場所に移し、寺名も瑞宝山歓喜寺に改めました。所蔵の絹本着色不動明王画像は県指定の重要文化財で広島市郷土資料館に保管されています。



7 りゅう せん じ 立専寺

元は武田氏の菩提寺
光見寺跡からの出土品を保管

元は武将山金龍院といい、銀山城主武田氏の菩提寺。武田氏の衰亡により廃寺となり、天文4(1535)年僧正春によって浄土真宗の寺として再興、武将山立専寺と改称されました。三王原古墳などから出土した銅鏡、鉄製の直刀、須恵器や光見寺跡から出土した軒瓦が保管されています。



祇園・山本コース

歩く距離 約5.1km
歩く時間 約70分

スタート JR 可部線 下祇園駅
約500m・約7分
↓ 1 安神社
約200m・約3分
↓ 2 安芸津彦神社
約1300m・約18分
↓ 3 大利神社
約0m・約0分
↓ 4 歓喜寺
約800m・約10分
↓ 5 迫公園
約600m・約8分
↓ 6 眞幡神社(眞幡社)
約100m・約2分
↓ 7 立専寺
約700m・約10分
↓ 8 専念寺
約300m・約4分
↓ 9 平山八幡神社
約600m・約8分
ゴール バス停 山本7丁目

散策コース
古代山陽道
推定の道筋

武田山麓に広がる
戦国時代の要衝

神社(眞幡社)のイチヨウの木を指して道を西に下りると、眞幡神社(眞幡社)と東山本から武田山の登山道沿いにある立専寺。登山道を下り、武田山医院の四つ角を右にしばらく進みます。春日野へ向かうバス道路を横切ると、右に専念寺へ向かう案内板がありますので、案内板に従って専念寺へ。横の坂道を上ると、平山八幡神社に到着。道を引き返し、バス道路の山本七丁目のバス停に向かいます。なお、平山八幡神社の南側にある舗装路を己斐峠方面に進むと、墓苑(ぼえん)の手前に古道が右から左上っていますので、時間があればご覧ください。

祇園・山本コース

祇園

ぎおん

② 長和久地区と須佐神社（荒神社）

長東と不動院を結び 太田川の渡し場

長和久地区は、長東と広島不動院との間を流れる太田川の渡船場があった所で、昔から集落がありました。この須佐神社は、長和久地区の氏神さんで、荒神社とも呼ばれています。



渡船場があった長和久地区



須佐神社（荒神社）

⑤ 八日市橋

古代に立った市の名残 当時の繁栄を思い返す

祇園一丁目と西原一丁目の境界線の川にかかっている橋です。橋の名前は、古い地名の八日市からつけられています。この付近には、古代から中世にかけて市が立ち、安芸の中心といわれていました。



⑧ 熊野神社

地区を火災から守る神 境内の石灯籠には盃状穴

天文年間（1532～1555年）、銀山城主武田氏が創建し、御祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命です。火災が多かったので熊野より勧請したところ収まったといわれ、防火神として崇敬されてきました。帆立地区の氏神さんです。



④ 賽神社

長東集落とほぼ同時に創建 地域を疫病から守る神

長東に集落が形成された平安時代中期から室町時代の時期に創建されたと思われます。祭神は猿田彦神で、道先案内、往来安全、五穀豊穡、疫病邪霊侵入阻止の神として信仰されています。



⑦ 豊島屋橋跡

古代山陽道が安川を渡る橋 橋の名は地元の豪商豊島屋から

長和久、河合地区から北西に雲石街道（現県道277号線）へ向かう道路が安川にあたった所にあった橋の跡です。現在では、その付近は安川緑道になっています。



① 長東神社

長東地区の総氏神 太田川全流域の水神

長東西小学校の北側（長東西三丁目）にあった大年山に八幡神を勧請して貞観12（870）年に創建。文政11（1828）年現在地に遷座されました。太田川放水路の完成と同時に、太田川全流域の水の神が勧請されています。



③ 蓮光寺

移転を重ね当地へ落ち着く 記念の松は樹齢約390年

鎌倉時代に、現祇園北高等学校付近の龍原に仏護寺と12坊の一つとして建立。その後、寺名を蓮光寺と改め、中区寺町に移った後、寛永元（1624）年に現在地に移転。境内にある蓮華松は、その時の記念に植えられました。



⑥ 空長第2号古墳（移転復元）

地域の有力者を埋葬か 刀などの鉄製品が出土

5世紀後半から6世紀初頭に築造された空長古墳群は4基の円墳からなり、現山本五丁目の丘陵尾根上にありましたが、宅地造成のために消滅。その第2号古墳の箱式石棺が祇園公民館へ移転復元されています。刀などの鉄製品が副葬されており、埋葬者は地域の有力者が考えられています。



長東・西原・祇園コース

歩く距離 約3.9km

歩く時間 約55分

スタート バス停
祇園大橋北

約300m・約4分

① 長東神社

約400m・約5分

② 長和久地区と
須佐神社（荒神社）

約600m・約9分

③ 蓮光寺

約500m・約8分

④ 賽神社

約700m・約10分

⑤ 八日市橋

約200m・約3分

⑥ 空長第2号古墳
（移転復元）

約400m・約5分

⑦ 豊島屋橋跡

約500m・約7分

⑧ 熊野神社

約300m・約4分

ゴール JR可部線
下祇園駅

散策コース
古代山陽道
推定の道筋



祇園

ぎおん

八日の市に集う人 物資行き交う要所

祇園大橋北バス停（エディオン前）から祇園大橋方面に少し進み、その手前の土手下の道を左にとると間もなく長東神社に至ります。そこから川土手を東に進んだ後、土手を下ると長和久地区の須佐神社（荒神社）があります。西に進み、国道183号を横断して祇園大橋方面へ進み、路地を西に進むと蓮光寺。その西にある新安川にかかる長東橋を渡り、道路を西に進み県道277号線、さらにJR可部線を渡ると賽神社です。道を新安川沿いまで戻り、川沿いに上流へ進むと八日市橋。さらに進むと祇園公民館があり、その敷地内に空長第2号古墳の石棺が移転復元されています。その上流の安川緑道にある豊島屋橋跡のそばを通ってかつての雲石街道へ、左にとって県道277号線との合流点近くまで進みます。右手に熊野神社の鳥居が見え、そこに向かう参道があるので、県道277号線を横断し参道を進むと熊野神社に到着。県道277号線とほぼ平行に走っている細い道を古市方面に進むとJR下祇園駅に到着します。

長東・西原・祇園コース

佐東

佐東公民館



古川の河川敷にあるせせらぎ公園は地域の憩いの場

支配者の勢力物語る古墳群 山麓や河川沿いに往来の跡

佐東公民館のエリアは、旧佐東町域です。旧佐東町は昭和30年に川内、八木、緑井の三村が合併しました。その後、広島市と合併し、区制施行時に旧村時代の町名が復活しました。

佐東エリアの古代山陽道の存在は、古代の文献では確認できません。古代山陽道が設置される前については、古墳遺跡からある程度検討が可能です。緑井の神宮山古墳群と宇那木山古墳群、八木の天井林古墳群などは、ともに大和朝廷の統一期から大化の改新以前において、この地域における人々の生活の連続性を具体的に示しています。これらの古墳は、神宮山、宇那木山の山頂付近を経て阿武山東南麓（現在の八木二丁目）まで確認でき、当時の支配者たちの勢力を物語っています。

さらに大化の改新の前後から全国各地に設置された大規模な条里制の遺構を、八木三丁目から緑井の平地部一帯に見ることができました。また、近年では緑井八丁目（上組）

の緩斜面にある畑の地下1・6mから、白鳳時代（645年ごろ）710年ごろの瓦（素弁蓮華文軒丸瓦）が完全な形で出土（植林遺跡）しています。「四本寺」という古い地名や、佐東地域では最大の横穴式石室墳となる四本寺古墳など、今後の研究が期待される遺跡も現存しています。

これらの遺跡群が連なる山麓は、当時の人々が往来する道や流路を変えながら形成された川（太田川）の自然堤防なども、主要な道として活用されたと想像されます。



古川と阿武山



※平成26年8月に発生した豪雨災害で、阿武山の麓に存在する寺・神社および史跡の一部が決壊していることや砂防堰堤の整備に伴い、参道が制限または立入禁止になっている場合があります。
※雲石街道は、『広島市の文化財第22集「広島付近の主要交通路の変遷」16ページ 第2節 陸行』および『ひろしま歴史街道散策くらぶ HP「出雲石見街道」』を参考にしています。

佐東（緑井）コース

歩く距離 約2.3km
歩く時間 約31分

スタート JR 可部線 緑井駅
約 700m・約 9 分
1 八木用水
約 500m・約 7 分
2 専蔵坊
約 600m・約 8 分
3 宇那木神社
約 500m・約 7 分
ゴール JR 可部線 七軒茶屋駅

八木地区

4 光廣神社
5 浄楽寺
6 権五郎神社

川内地区

7 浄行寺
8 温井八幡神社
9 明円寺
10 中調子八幡宮・天満宮

散策コース
雲石街道

散策コースの紹介

古墳時代から現代へ 時代の変遷を歩む

J R 可部線の緑井駅から江戸中期に開通した八木用水沿いの道を歩き、緑井地区の神社仏閣をめぐるルートです。

この一帯は八木用水、川の内用水といった農業用水が流れ、水不足に悩まされた時代を思い起こさせます。権現山から阿武山東側の丘陵地一帯には、4世紀初めから7世紀にかけての古墳が現存。丘陵頂上の古墳の竪穴式石室から銅鏡や鉄器などが複数出土しています。

八木地区は、八木城の香川勝雄の大蛇退治伝説と、それらにちなんだ史跡が存在します。また、太田川の利・治水事業として建設された高瀬堰、これによる旧佐東町（川内・緑井・八木）一帯が洪水禍から解放された記念碑「大禹謨（だいうぼ）」など、新しい文化遺産もあります。

川内地区は明治21年まで温井村、中調子村の二つの村が存在しており、安佐南区川内となった今でも、それぞれの地区で緑井・八木地区と同様な秋祭りなどの伝統行事を行っています。広島菓の産地として全国的にも有名です。



① 八木用水 農業に欠かせない水路 総延長距離は約16km

太田川右岸の佐東、安古市、祇園一帯の農業用水確保のため、南下安村の太工卯之助が中心となって工事が行われ、明和5（1768）年に完成し通水を始めた延長約16kmの農業用水路。現代も農業用水路として利用しています。

④ 光廣神社 毛利氏が鎌倉から移した 大蛇退治の伝説が残る

約500年前、毛利氏が鎌倉の鶴岡八幡宮から八幡三神を移して祭ったとされ、八木村の氏神としてあがめられてきました。八木城主香川氏の祈願所とされ、香川勝雄が大蛇を退治した太刀が奉納されていました。



⑧ 温井八幡神社 旧温井村の氏神様と大イチョウ

八幡三神を祭っており、旧温井村の氏神として尊崇されてきました。境内には、樹高24mで、鍾乳石のような乳柱を多数下げた特徴的なイチョウの木「温井八幡の乳下がイチョウ（市指定天然記念物）」があります。



② 専蔵坊

度々の火災で消えた文献 背後の古墳は前方後円墳

天文年間（1532～1555年）教順の開基と伝えられていますが、古文献などの記録は火災で失われました。江戸期の住職曇龍の時には教勢は盛大となったとも伝えられています。後方の山頂には、神宮山1号古墳。



⑤ 浄楽寺

本堂は4年がかりで移築 紅葉が映える美しい山門

柏溪山と号し、玄和5（1619）年、順超（じゅんちょう）という僧が開きました。現在の本堂は明治11（1878）年から4年がかりで可部の福王寺から移築。



⑦ 浄行寺

地域に響く平和の鐘の音

芸藩通志に「温井村にあり、竜頭山号す、永正五年戊辰僧覚浄開基」と記されており、覚浄は瀬野村檜ヶ城主坂山行次の長男四郎といわれています。「平和への思い」を込めて毎朝欠かさず突かれる鐘は、戦後に地元の門徒が金を出し合って造りました。



③ 宇那木神社

甲斐の国から来た神様 銀山城北門守護の社

安芸の国守護武田氏の銀山城の北方を守るために、甲斐の国（山梨県）から八幡三神を移して祭ったと伝えられています。宇那木神社の拝殿右側の登山道を登ると、宇那木山古墳、宇那木山2号古墳。



⑥ 権五郎神社

八木城跡にある小社 城主の祖先が祭神

八木城主香川氏の祖先である「鎌倉権五郎景正」を祭神としたことから、この名前がつけられたとされています。香川家七代目の景光が、八木城築城とともに景正の霊を勧請し、子孫が代々祭ってきたとされています。



⑨ 明円寺

毛利を支えた水軍、福島氏ゆかりの寺

福島大和守真道の二男が慶長9（1604）年に開基し、山号を福島山という福島氏ゆかりの寺です。福島氏は安芸国守護武田氏の下で守護代を務め、のちに毛利氏に従い水軍として活躍したと伝えられています。

⑩ 中調子八幡宮・天満宮

荘厳な木製鳥居 大宰府の梅木で御神体



中調子村の氏神として八幡三神を祭る、木製の鳥居が特徴的な神社です。天満宮は、安芸国の守護武田義信の祈願所として建立、祭神は菅原道真。御神体木像は、太宰府天満宮の梅の木で彫られたとされています。

➡ 向かって右が八幡宮、左に天満宮

古代山陽道 散策コース②

戸山

戸山公民館



阿戸地区から吉山方面を望む。向かって左に戸山富士と呼ばれる大利蔵山

安佐南区の北西部に位置する戸山地区は、古の時代より地区最高峰の東郷山（標高977m）をはじめとする山々に抱かれ、これらを源流として地域を横断しつつ太田川にそそぐ吉山川を囲むように南北約9kmにわたり、細長くすり鉢状に開けた緑豊かな里山・田園地帯です。

郷土出身の作家、若杉慧は我が故郷を「吉山川に沿って広がる一枚の木の葉のような緑豊かな美しい里」と表現しました。山向こうの西風新都の開発に伴い、近年は広島市中心部からの交通の利便性が格段に向上し「広島市中心部から30分の絶好の立地条件にある田園地帯」として定住希望も増えるなど注目の地区になりました。

戸山地区が歴史舞台に登場するのは十世紀頃からです。京都や大和の都からこの地に來た、との話がいくつもの時代を経て伝えられ、「こんな山奥にどうして……」との疑問がわくところですが、峠一つ越えた伴地区が、当時、古代山陽道が通るな



辻堂屋敷跡から吉山地区を見る

ど交通の要衝の地であったことを考えれば、隠棲の地などとしてのロマンの可能性が膨らみます。

阿戸村と吉山村が明治22年に戸山村として合併以降、今日に至るまで一つのコミュニティエリアとして、地域住民の方々の深い郷土愛と強い絆により、地域の貴重な伝統芸能や文化財、そして生活環境等が大切に保存され、次世代に受け継がれる活動を継続されています。



2 山之御所 阿刀明神社

阿刀一族が祭る祖神 神楽と社叢が圧巻

大和朝廷の頃、この地に派遣された阿刀一族が祖神・可美真手命（うましでのみこと）を祭り、仁寿2(852)年、天照大神、宗像三女神を合祀したのが始まりと伝わります。鎌倉時代の書物「楽音寺神明帳」に阿刀明神の名があります。神社境内に古来からの舞殿を建てて、秋の大祭に奉納される阿刀神楽と境内周辺一帯の社叢は見てたえ十分です。

3 阿刀明神社の社叢

祖先の情熱が注がれた
神社維持の社叢

コウヤマキ、スギ、ヒノキ、モッコクなどは植林ですが、その時期は社殿を改築した19世紀中頃とされ、祖先の阿刀明神社維持に対する情熱が感じられます。カシ等の広葉樹も豊富で植林以前の古い社叢が想像できます。



広島市天然記念物指定（昭和49年2月18日）

6 中の森八幡神社のアラカシ

碧深く閑静な境内の聖明神

アラカシは日本西南部の暖帯に広く分布する常緑広葉樹ですが、胸高直径が1メートルを超えるものはめったにありません。主幹根元直径が1.6メートル余りもあり、まれに見る巨木といえます。また、地上約1.5メートルのあたりで6岐しており、樹形もおもしろいものです。



広島市天然記念物指定（昭和50年4月14日）

5 中の森八幡神社

かつての吉山村の村社

鳥居からの石段は141段

弘治2(1556)年に、この地に来た三宅飛騨守が守護神として懐中していた八幡神を祭ったことに始まると伝わります。境内に至る長く急な石段と広島市天然記念物のアラカシの巨木は見事です。



1 衣笠幸右衛門の墓

大和の国から逃れ住む
当地を開拓した先人が眠る

1300年頃、大和の国、丹生(にふ)の衣笠城が落城し、この地に逃れた城主「吉平公」（後に幸右衛門と改名）が、吉山川からの水路建設などに尽力し、この地を拓いたと伝わっています。



阿刀神楽 広島県内の十二神祇系神楽の代表格

阿刀神楽は毎年10月の秋祭り前夜に阿刀明神社と中の森八幡神社（一年おきに交互）の境内で、阿刀神楽団により奉納されています。

十二の演目はそれぞれ技術的にも優れていますが、特に「鼓の口開け」「湯立舞」「煤掃き」「神降し」に古型を見ることができます。最後の「しょうぐん」といわれる舞は託宣（※）の形式をとどめる珍しいものです。この舞は、別名「死に入り」と呼ばれ、他の十二神祇系神楽団では、ほとんど舞われなくなっています。

※託宣……神が人に乗り移ること

昭和55年12月に文化庁から「記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財」の選定を受けています。



広島県無形民俗文化財指定（昭和40年10月29日）

4 辻堂屋敷跡

建武の新政の高官が

隠れ住んだ地

建武の新政(1333年)の頃、安芸国の国司を父に持つ恩賞方長官であった「藤原藤房（萬里小路藤房・までのこうじふふさ）」が、故あってこの地に隠棲したとの伝承があります。大きな石垣の屋敷跡は、今も昔の面影をとどめています。



戸山コース

歩く距離 約5.45km

歩く時間 約1時間45分

スタート バス停 出雲

約350m・約5分

1 衣笠幸右衛門の墓

約850m・約11分

2 山之御所 阿刀明神社

3 阿刀明神社の社叢

約1100m・約14分

戸山公民館

約1300m・約17分

4 辻堂屋敷跡

約1450m・約18分

5 中の森八幡神社

6 中の森八幡神社のアラカシ

約400m・約5分

ゴール バス停 中吉山

散策コース
明治時代後半の往還



戸山

とやま

散策コースの紹介

季節を感じて歩く
絶景の里山風景

阿戸地区の「出雲」バス停留所から、吉山地区の「中吉山」バス停留所までの約5・5kmの経路です。この経路には、地域の治水開拓事業に功のあった衣笠幸右衛門の墓、境内の社叢が広島市天然記念物指定の山之御所阿刀明神社、萬里小路藤房の隠棲の地と伝承される辻堂屋敷跡、広島市天然記念物指定のアラカシの巨木が境内にある中の森八幡神社を始め数々の見どころがあります。

衣笠幸右衛門の墓の付近からは、岳山や阿戸地域の長閑な里山風景が一望できます。

吉山の辻堂屋敷跡から中の森八幡神社に至る道は、古くからの街道で、この道の傍らでは農業基盤整備（ほ場整備）が完了し、ビニールハウスでは多くの新規就農青年による葉物野菜等が栽培されています。また、県道71号線沿いの中の森八幡神社下の鳥居から境内に至る141段の石段の走破は、足腰・体力に自信のある方にはお勧めです。

あさみなみ散策マップ 【広島市安佐南区役所地域起こし推進課】

〈相田・安ルート〉〈高取・長楽寺ルート〉〈毘沙門ルート〉〈安川ルート〉〈古市ルート〉

〈東野・川内ルート〉〈祇園・長束ルート／祇園・大町ルート〉〈祇園・山本ルート〉

〈伴ルート／奥畑ルート〉〈大塚ルート〉〈緑井ルート／上八木ルート〉

〈八木ルート／八木山の端ルート〉〈阿戸ルート〉〈吉山ルート〉

相田地区辺りの郷土史メモ(広島市安佐南区) 【横山雅昭】

かたばみ 郷土と学校の歴史 【広島市立中筋小学校記念誌編集委員会】

祇園新道誌 【建設省中国地方建設局広島国道工事事務所監修】

祇園町誌 【祇園町】

藝藩通志

芸備第1集 広島市祇園町三王原古墳について 【中田昭】

佐東町史 【広島市役所】

里山散歩―武田山の自然と歴史― 【里山環境保全みどり会】

武田山・火山史蹟保勝会10周年記念講演会

「遺跡・遺物からみた弥生〜中世の「山本地区」(含)古代山陽道」資料【日本考古学協会 是光基】

武田山周辺旧跡等散策マップ 【安地区まちづくりプランプロジェクト・安郷土史懇話会】

訪ねて知ろう安の名所(長楽寺・高取地区) 【安公民館・安郷土史懇話会】

訪ねて知ろう安の名所(別冊) 【安公民館・安郷土史懇話会】

訪ねて知ろう安の名所(安・相田地区) 【安公民館・安郷土史懇話会】

戸山史跡案内 初版 【戸山民俗資料館】

戸山ものがたり 【戸山ものがたりを作る会】

沼田町史 【広島市役所】

沼田歴史散歩 【沼田歴史散歩の会】

ひろしまWEB博物館 <http://www.moguin.or.jp/museum/hwm/> 【公財】広島市文化財団

ひろしま歴史街道散策くさく <http://hirosimahistoroad.blog.fc2.com> 【ひろしま歴史街道散策くさく】

広島県無形文化財 阿刀神楽 パンフレット 【阿刀神社・阿刀神楽保存会・阿刀神楽団】

広島市の文化財第13集 空長古墳群発掘調査報告書 【広島市教育委員会】

広島市の文化財第22集 広島近郊の主要交通路の変遷 【広島市教育委員会】

広島市の文化財第26集 広島市安佐南区祇園町所在九郎杖遺跡・権地遺跡発掘調査報告 【広島市教育委員会】

広島市の文化財第32集 広島市安佐南区祇園町所在池の内遺跡発掘調査報告 【広島市教育委員会】

広島市の文化財第50集 古路・古道調査報告 【広島市教育委員会(財)広島市歴史科学教育事業団】

(財)広島市歴史科学教育事業団調査報告書第19集

広島市安佐南区山本七丁目所在寺山遺跡発掘調査報告 【(財)広島市歴史科学教育事業団】

広島市の神楽 【第一法規出版(株)】

広島湾頭をめぐる歴史群像 【(財)広島市文化財団 広島城】

古市町誌 【安佐郡古市町役場】

古川安川 【広島都市生活研究会(協力)広島市教育委員会文化課】

ふるさと今昔(東野・中筋・東原) 【広島市東野公民館】

ふるさとやまと 【山本史をつくる会】

安川筋の郷土史 安川紀行 【織田武宣】

安川流域の石碑と道しるべ 【安公民館・安郷土史懇話会】

安古市町史 【安古市町役場】

ロマン街道 下向 【下向わくわくまちづくりの会】

倭名類聚鈔

古代山陽道 安佐南区散策マップ作成委員会

東野・古市

山田和正 (安郷土史懇話会)

杉山武郎 (ふるさと今昔写真保存会)

古市公民館

東野公民館

祇園

古川武司 (武田山・火山史蹟保勝会)

山王憲雄 (里山環境保全みどり会)

近藤基隆 (プロジェクト武田山)

祇園公民館

祇園西公民館

安

佐伯 智 (安郷土史懇話会)

坂本淳治 (安郷土史懇話会)

山根 稔 (安郷土史懇話会)

安東公民館

安公民館

佐東

福谷昭二 (佐東公民館運営委員)

佐東公民館

戸山

中川 博 (戸山民俗資料保存会)

戸山公民館

伴・大塚

善甫利憲 (沼田歴史散歩の会)

手島秀昭 (沼田歴史散歩の会)

國田晃司 (下向町内会)

沼田公民館

大塚公民館

作成協力

安佐南区役所地域起こし推進課

織田雅己 (鳥かん図制作)

杉田康之 (編集・デザイン)

各エリアの散策コースや紹介施設等の詳細は、各公民館へお問合せください。

- 古市公民館 (☎082-877-2677)
- 東野公民館 (☎082-876-1146)
- 安東公民館 (☎082-878-7683)
- 安公民館 (☎082-872-4495)
- 沼田公民館 (☎082-848-0242)
- 大塚公民館 (☎082-849-1841)
- 祇園公民館 (☎082-874-5181)
- 祇園西公民館 (☎082-875-1760)
- 佐東公民館 (☎082-877-5200)
- 戸山公民館 (☎082-839-3320)

古代山陽道 安佐南区散策マップ

平成29(2017)年3月発行

企画作成／古代山陽道 安佐南区散策マップ作成委員会

古市公民館・佐東公民館・東野公民館・安東公民館
安公民館・祇園公民館・祇園西公民館・沼田公民館
大塚公民館・戸山公民館

発行／公益財団法人 広島市文化財団